

厚生労働省三重労働局発表

令和4年5月30日

テレビ・インターネット 5月30日記者会見終了後解禁  
新聞 5月31日朝刊解禁

【照会先】

三重労働局職業安定部職業安定課

課長 藤木 真保

課長補佐 堀 保

地方労働市場情報官 木下 欣也

(電話) 059 (226) 2305 (内線 228)

報道関係者 各位

## 「雇用情報モニター報告集計結果(令和4年度第1・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年4回(四半期毎)提出いただいております。

このたび、令和4年度第1・四半期(令和4年4月～6月)実績見込み及び次期(令和4年7月～9月)見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

### 調査結果 主な項目の概要

#### ○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が24.2%で前期と比べ減少、「減少」が17.7%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は6.5で前期と同数値。次期見通しは25.8で上昇予想。

#### ○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が23.8%で前期と比べ増加、「減少」が20.6%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は3.2となり前期と比べ6.3ポイント上昇。次期見通しは20.6で上昇予想。

#### ○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が27.0%で前期と比べ増加、「減少」が15.9%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は11.1となり前期と比べ7.8ポイント上昇。次期見通しは25.4で上昇予想。

#### ○ 設備投資の見込み

「ある」が23.8%で前期と比べ5.0ポイント増加、「ない」が44.4%で前期と比べ2.5ポイント減少。D I(「ある」-「ない」)は▲20.6で前期と比べ7.5ポイント上昇。

#### ○ 従業員の過不足判断

「過剰」は1.6ポイントで前期と比べ減少、「やや過剰」は5.5ポイントで前期と比べ増加、「不足」は7.8ポイントで前期と比べ減少、「やや不足」は25.8ポイントで前期と比べ増加。D I(「過剰」-「不足」)は▲26.5となり前期と比べ1.4ポイント下降(不足判断が増加)。次期見通しは▲35.1で「不足」判断は増加の予想。

#### ○ 雇用調整の状況

実施事業所数は25事業所(39.1%)で、前期の26事業所(40.6%)より1事業所の減少。

## ○資料

別添 「令和4年度 雇用情報モニター報告集計」

## ○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
- ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
- ・調査時期 令和4年度第1四半期（令和4年4月～6月）実績見込み及び次期（令和4年7月～9月）見通しについて
- ・モニター内訳 民間企業64社（建設業3、製造業46、運輸業2、小売業8、サービス業等5）事業主団体等8
- ・回答状況 民間企業64社、事業主団体等8団体

（注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

# 令和4年度 雇用情報モニター報告集計

令和4年度 第1・四半期  
三重労働局職業安定部職業安定課

令和3年度第4・四半期（4年1月～3月 以下前期）においては、多くの指標のD Iがプラスとなり、令和4年度第1・四半期（4年4月～6月 以下今期）においても、多くの指標のD Iがプラスとなりました。

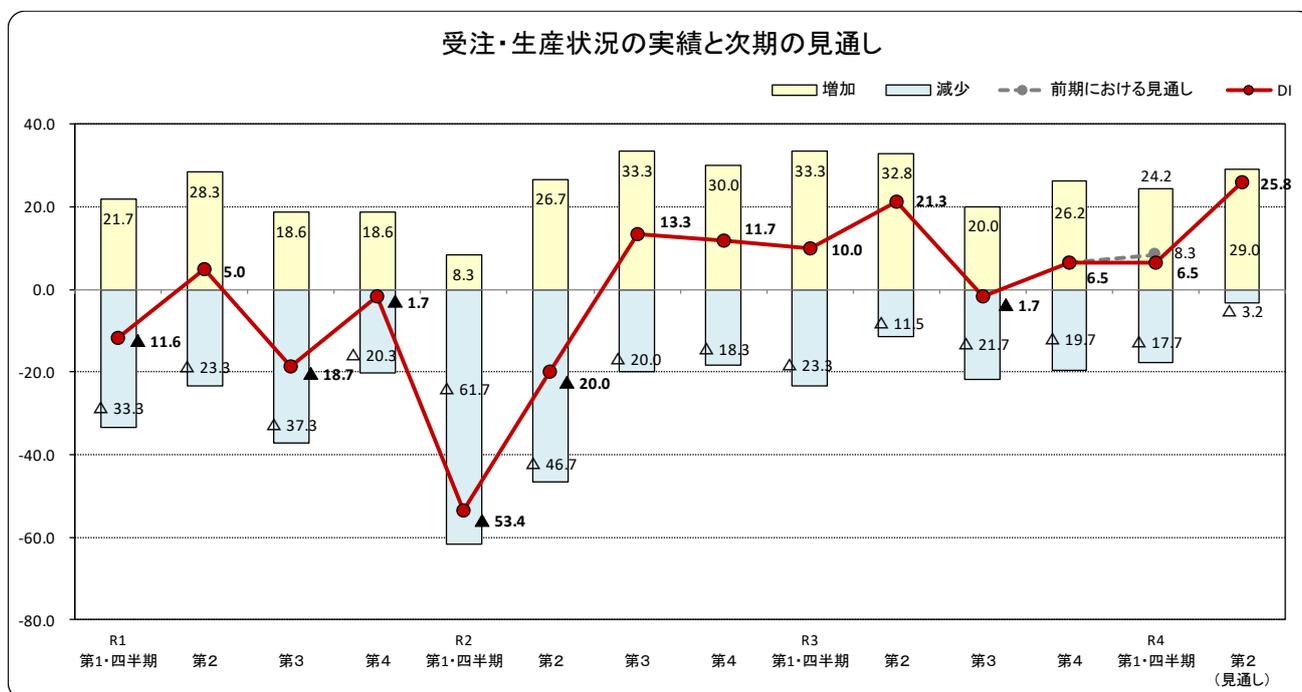
次期の予想においては、多くの指標で上昇の見通しとなっています。

## 1. 受注・生産動向について

### 【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が24.2%、「減少」が17.7%で、D I（「増加」－「減少」）は6.5で前期と同数値となり、2期連続でプラスとなりました。

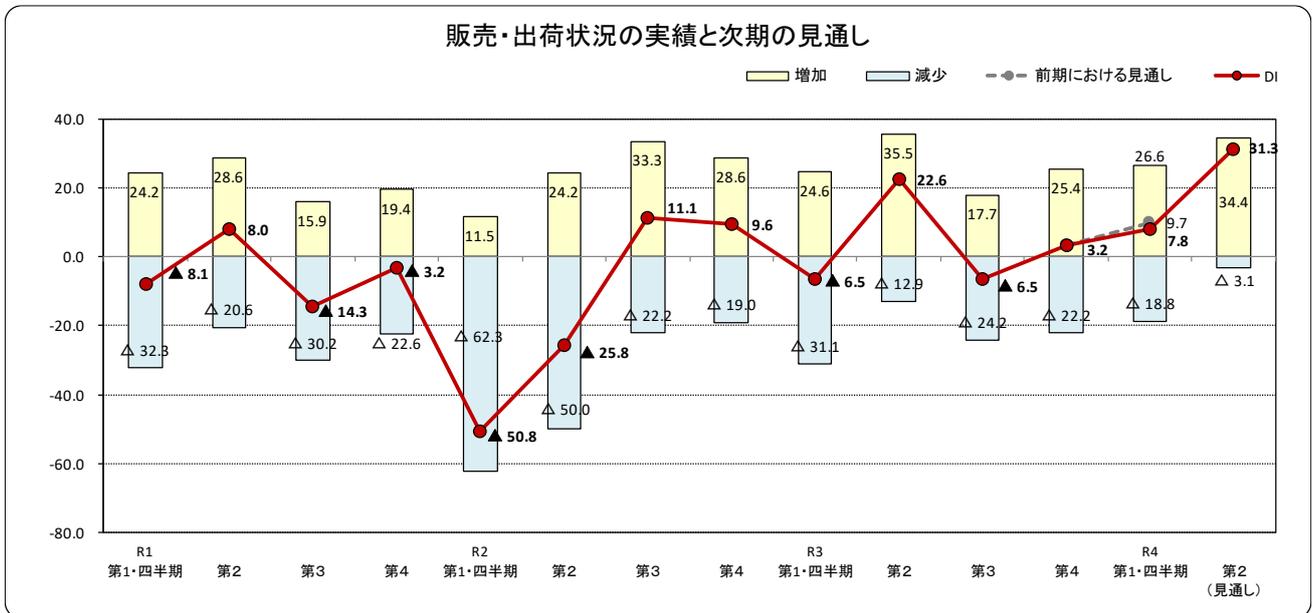
次期の見通しについては、D Iは25.8で、上昇する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が 26.6%、「減少」が 18.8%で、D I（「増加」－「減少」）は 7.8で前期と比べ 4.6 ポイント上昇し、2 期連続でプラスとなりました。

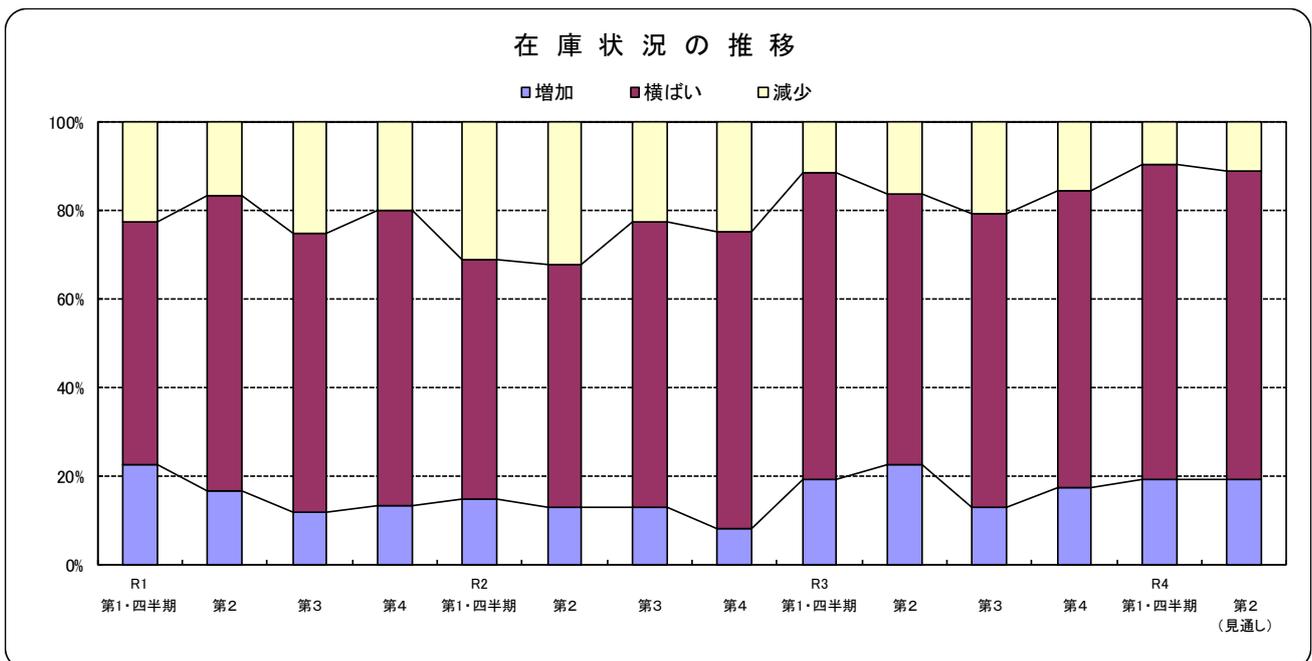
次期の見通しについては、D I は 31.3 で、上昇する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が増加、「減少」が減少、49 期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「増加」が横ばい、「減少」が増加する予想となっています。

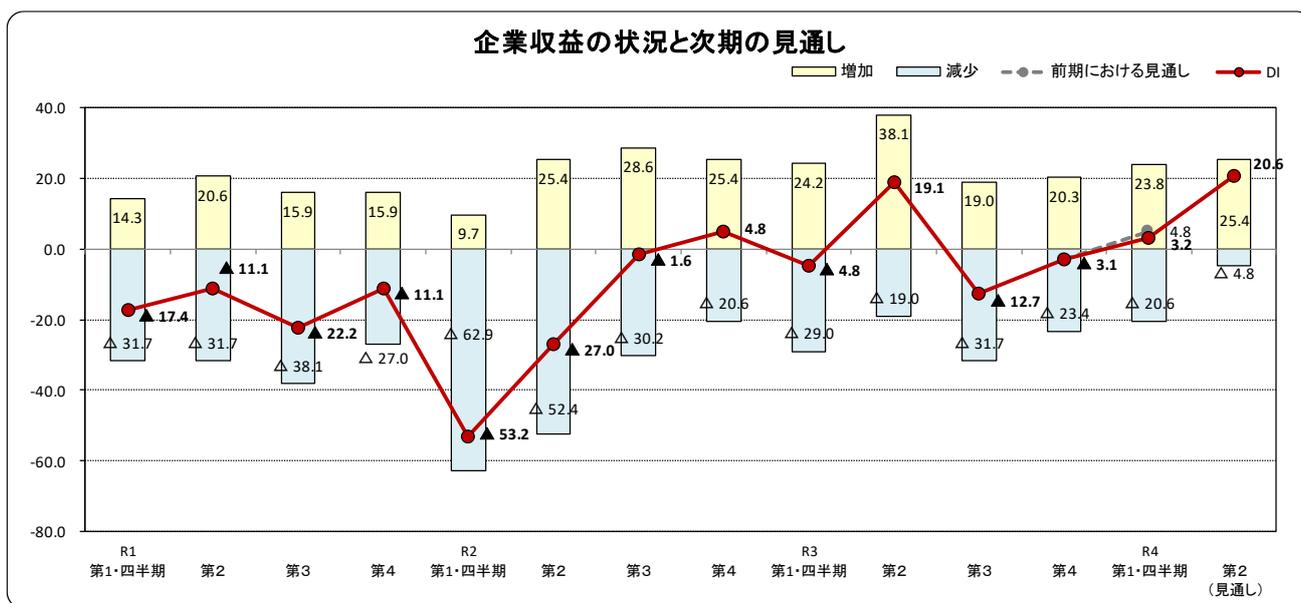


## 2. 企業活動の状況について

### 【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が 23.8%、「減少」が 20.6%で、D I（「増加」－「減少」）は 3.2 となり、前期と比べ 6.3 ポイント上昇し、3 期ぶりにプラスとなりました。

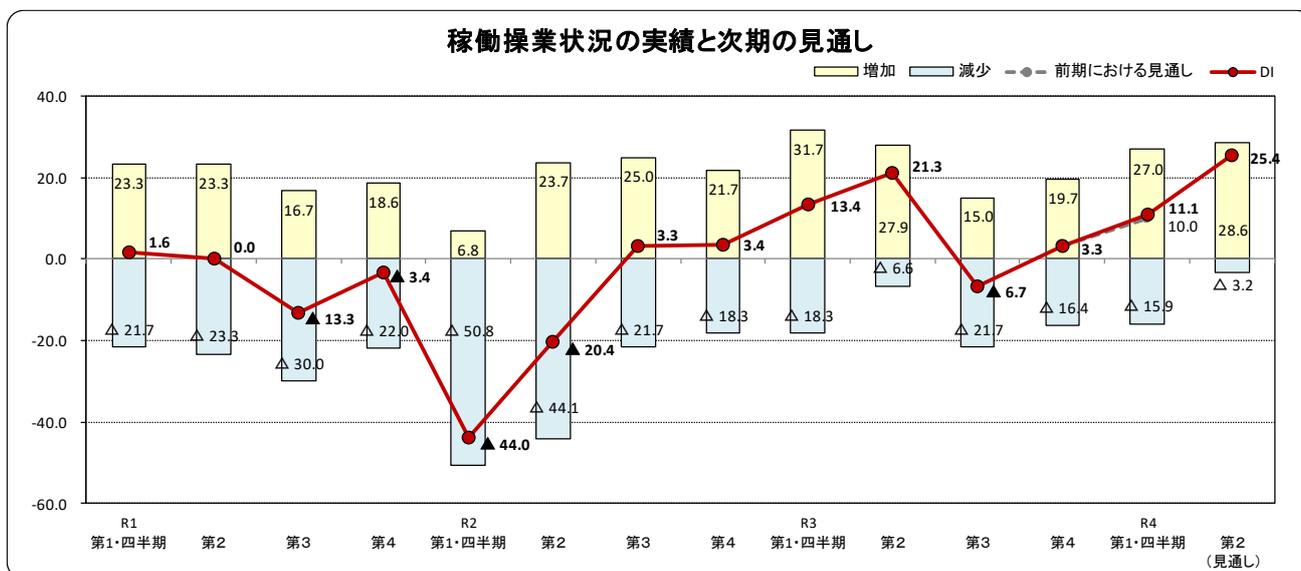
次期の見通しについては、D I は 20.6 で、上昇する予想となっています。



### 【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

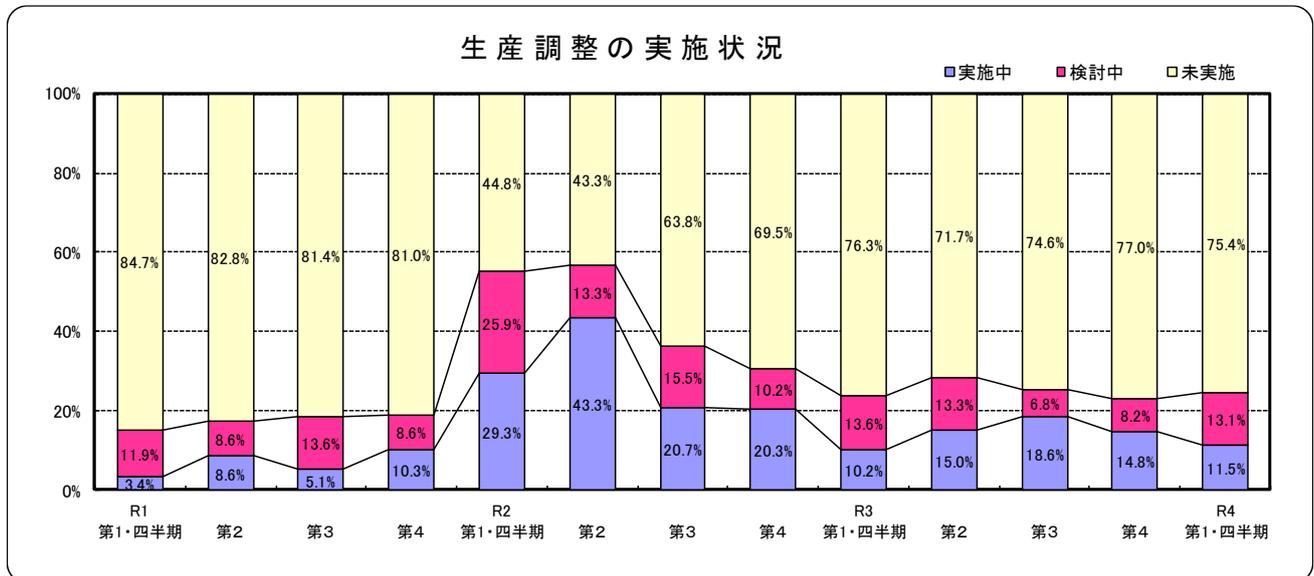
今期の稼働操業状況では、「増加」が 27.0%、「減少」が 15.9%で、D I（「増加」－「減少」）は 11.1 となり、前期と比べ 7.8 ポイント上昇し、2 期連続でプラスとなりました。

次期の見通しについては、D I は 25.4 で、上昇する予想となっています。



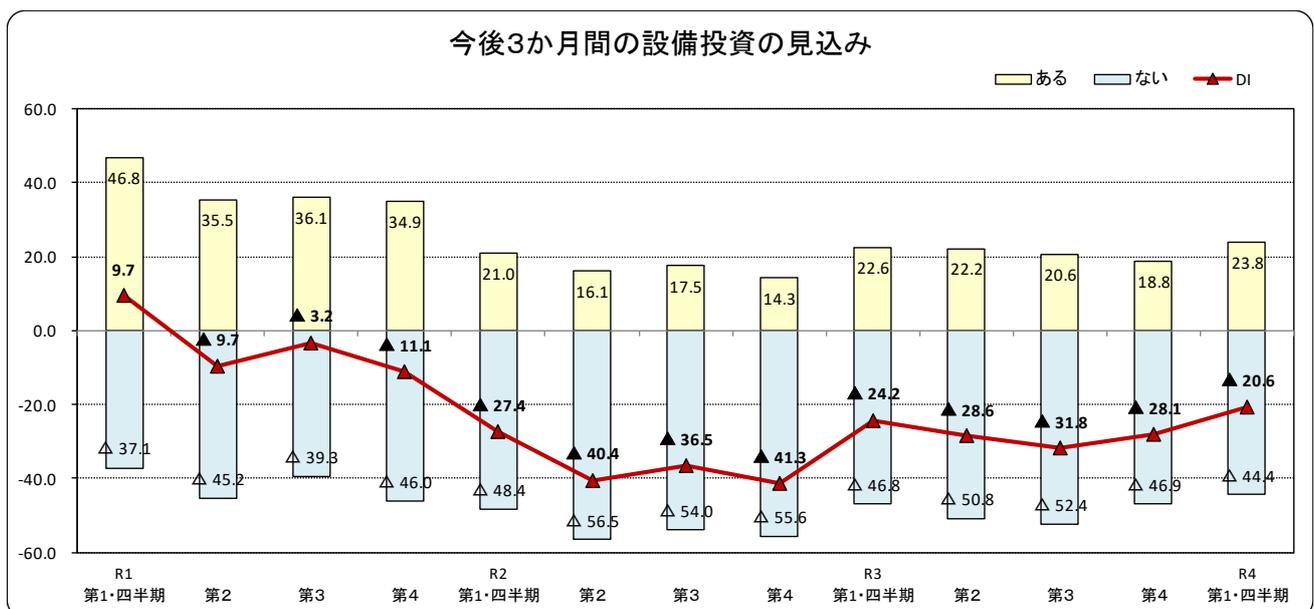
### 【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は75.4%で前期と比べ1.6ポイント減少、「検討中」は13.1%で4.9ポイント増加、「実施中」は11.5%で3.3ポイント減少となりました。



### 【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は23.8%で前期と比べ5.0ポイント増加、「ない」とする事業所の割合は44.4%で前期と比べ2.5ポイント減少、D I（「ある」-「ない」）は▲20.6となり、前期と比べ7.5ポイント上昇しました。

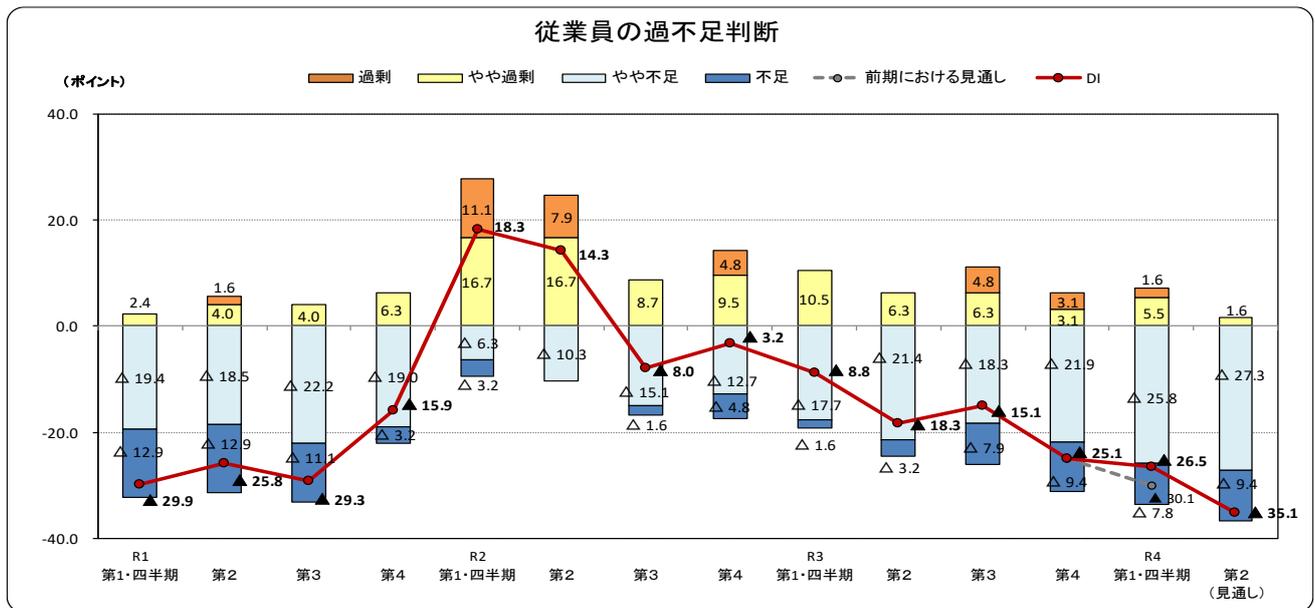


### 3. 雇用動向について

#### 【従業員の過不足判断】

「過剰」とする事業所は 1.6 ポイントで前期と比べ 1.5 ポイント減少、「やや過剰」とする事業所は 5.5 ポイントで前期と比べ 2.4 ポイント増加、「不足」とする事業所は 7.8 ポイントで前期と比べ 1.6 ポイント減少、「やや不足」とする事業所は 25.8 ポイントで前期と比べ 3.9 ポイント増加し、D I（「過剰」－「不足」）は▲26.5 となり、前期より 1.4 ポイント下降（不足判断が増加）し、7 期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

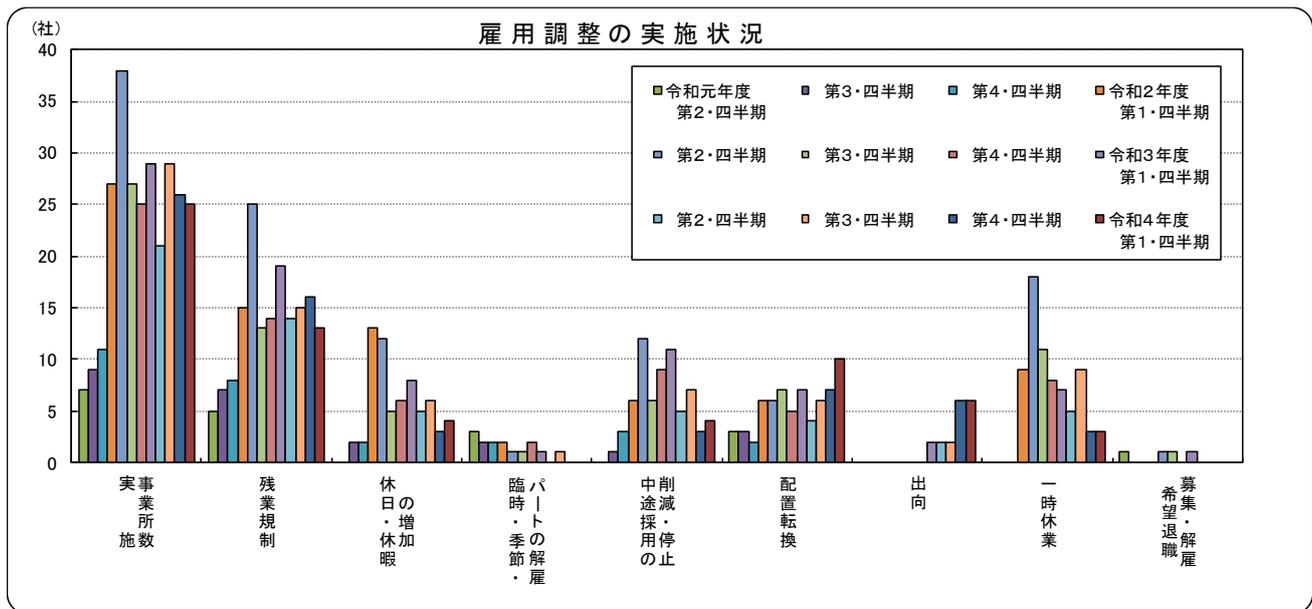
次期の見通しについては、D I は▲35.1 で、不足判断が増加する予想となっています。



#### 【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は 25 事業所 (39.1%) で、前期の 26 事業所 (40.6%) より 1 事業所の減少となりました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
令和元年度 第2・四半期	62	54	1	7	5	0	3	0	3	0	0	1
第3・四半期	62	52	1	9	7	2	2	1	3	0	0	0
第4・四半期	62	51	0	11	8	2	2	3	2	0	0	0
令和2年度 第1・四半期	61	25	9	27	15	13	2	6	6	0	9	0
第2・四半期	59	18	3	38	25	12	1	12	6	0	18	1
第3・四半期	63	33	3	27	13	5	1	6	7	0	11	1
第4・四半期	62	34	3	25	14	6	2	9	5	0	8	0
令和3年度 第1・四半期	62	30	3	29	19	8	1	11	7	2	7	1
第2・四半期	63	34	8	21	14	5	0	5	4	2	5	0
第3・四半期	63	32	2	29	15	6	1	7	6	2	9	0
第4・四半期	64	32	6	26	16	3	0	3	7	6	3	0
令和4年度 第1・四半期	64	36	3	25	13	4	0	4	10	6	3	0



<主なコメント>

- 従業員の高齢化により、不足感・不安感はある。(複合サービス業)
- コロナの影響により、需要が回復していない。この状況は当分続くと判断している。(製造業)
- 働き方改革等を視野に入れた労務管理を実施している。有資格者の不足が受注機会の損失に直結するので、資格保持者の確保が必要。(建設業)
- 業界ではコロナ感染症のクラスターも発生、明るい見通しが立たない状況が続いており、世間との認識の差を強く感じる。(医療、福祉)
- 国内での先行きは不透明だが、輸出は好調。物流費や原料費の高騰により収益確保が厳しくなってくると予想。(製造業)
- 半導体を中心とした部品の供給不足の影響を受けている。不透明な状況が続く見込み。(製造業)
- 部材の入手難や材料費・輸送費等の高騰が、生産遅延と収益悪化の要因となっている。(製造業)
- 徐々にではあるが宿泊客数は上昇傾向。次期は夏休み期間であるので従業員不足が深刻化しそうである。(宿泊業、飲食サービス業)
- 取引先において、米中貿易摩擦やコロナ禍で先送りされた設備投資が再開されたのに加え、電気自動車や高速通信規格など先端技術向けの生産設備の増強も追い風になり、需要は回復しているが、中国のロックダウンやウクライナ危機の影響を受け始め、納期面で不安な状態が出始めている。(製造業)
- 原料、電気料金の値上がり収益を圧迫。この傾向は来期も続く見通しであり、経営環境は一段と厳しさを増している。(製造業)
- 引き続きコロナ禍により、食品は好調、衣料品は大幅に売り上げ減少。(卸売業、小売業)
- 上海のロックダウンにより、国内でのバック生産が発生し、結果的に国内生産が増加した。(製造業)
- 納入先の半導体不足や福島沖地震による仕入先の被災により、受注・生産は計画に対して大幅な減少。(製造業)
- 受注・生産は全体的には回復傾向であるが、半導体の供給逼迫、コンテナ不足も引き続き影響を受け、更に中国のロックダウンによる部品入手難等の影響により、大きな回復には至っていない。(製造業)